



九州ー関東、関西間の定温送配「く・くーる便」の大型トラック

トワード

3 温度帯物流が主力のトワード（友田健治社長、佐賀県吉野ケ里町）は、物価高やコロナ禍などの逆風の中でも着実に業績を伸ばしている。長距離輸送では、大型冷凍車による九州ー関東の毎日配送サービス「く・くーる便」を強化。食物残渣から有機肥料をつくるR&R（リバースロジスティクス&リサイクル）事業のプラントはフル稼働が続く。

売上げの8割を占める外食、食品小売向けの定温輸送が好調だ。冷凍食品需要の高まりが業績をけん引

し、2022年8月期の売上高は過去最高の86億4600万円を達成。プラス基調は続いており、23年8月期の売上高は90億を見込む。

その成長の源泉は、同社

定温輸送サービス好調

冷食需要 業績けん引

が得意とする高品質な定温輸送サービス「F&E（フアジー・アンド・エコノミカル）」。F&Eは保冷力ゴ台車と保冷車、定温セーターを駆使して、多温度帯の商品を一定の温度に保ち

堅調に推移している。20年10月、従来の九州ー関東使に加え、大型車2台、乗務員2人体制で九州ー関西使が運行を開始した。関西便の上り乗務員は午前10時にトワード本社を出

発日中、九州で貨物を集め午後8時に福岡・大阪のフェリーに乗船してしつかりと休息をとる。翌日、関西エリアで配送した後、夕方に兵庫県三木市の中継地点で下りの折り返しのドライバ

つつ一括配送できる。高度化する定温輸送のニーズにF&Eがマッチし、既存、新規顧客からの需要が増え、業績を押し上げた。

一方、長距離定温輸送のよく・くーる便の輸送量も

上げ、移動用の軽自動車3台も用意してリフレッシュできる環境を整えた。また、肥料価格の高騰を背景にR&R事業が急速な広がりを見せている。R&Rは外食店舗や食品工場向けの配送トラックで食物残渣を回収（集荷）し、自社プラントで有機肥料「永遠土（とわーど）」を再生産するリサイクルシステム。

（上田慎一）